

# 環境経営レポート

2023年度環境活動（2022年12月～2023年11月）



2023年12月25日

株式会社 宮坂工務店



## ■事業活動の概要

- 1) 事業所名 株式会社 宮坂工務店
- 2) 代表者 代表取締役 宮坂 勝紀
- 3) 所在地 本社 奈良県奈良市三条栄町17-11
- 4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先
 

環境管理責任者	宮坂 正博
担当者 (EA21事務局)	宮坂 栄子
連絡先	TEL 0742-33-8927
	FAX 0742-34-7273
- 5) 事業の内容 管工事業(ガス工事、設備工事)  
一般土木工事
- 6) 事業の規模
 

売上高	513 百万円 (2023年度)
従業員数	30 人
延べ床面積	556.4㎡
資本金	5000万円
設立年月	昭和25年12月
- 7) 事業年度 12月 ~ 11月

## ■対象範囲

- 1) 認証・登録範囲
  - ・登録組織名 株式会社 宮坂工務店
  - ・活動内容 管工事業 (ガス工事及び設備工事)、一般土木工事業
- 2) レポートの対象期間及び発行日等
  - ・対象期間 令和4年12月～令和5年11月
  - ・発行日 令和5年12月25日
  - ・対象組織と活動内容 認証登録範囲と同じ

## ■主要な環境負荷排出量

(CO2排出量、廃棄物総排出量、水使用量)

項 目		2021度	2022度	2023度
CO2排出量(kg-CO2)	事業所	37987	38566	37508
	建設現場	64233	72761	67206
	計	102220	111327	104714
廃棄物排出量(t)	事業所	0.59	0.56	0.57
	建設現場	906.06	986	957.37
	計	906.65	986.56	957.94
水使用量(m <sup>3</sup> )	事業所	390	329	346
	建設現場	24	23	27
	計	414	352	373

}

949t アスコン  
1.32t 4-4表  
7.05t 汚泥

※、購入電力のCO2排出係数については、  
2019年度大阪ガス電力の調整後排出係数0.495Kg-CO2/kWhを使用している。

# 環 境 経 営 方 針

当社は、文化財に恵まれた大和盆地を中心に、ガス工事、一般土木工事において、お客様第一をモットーに、経営品質向上を目指し、絶えず改善改革をして環境への負荷削減をはじめとする環境保全活動を積極的に取り組み、脱炭素型社会、循環型社会、自然共生社会の3つを統合した持続可能な社会に貢献することを誓約します。

- 1 事業活動に関わる環境関連の法規、条例及び、Daigasグループ 環境方針の要請事項を含むその他の要求事項を遵守します。
- 2 近年、感染症・気候変動・紛争によるエネルギー、食糧不足等多くの課題に直面しているなか、「持続可能な世界」を目指し、SDGs、カーボンニュートラルに貢献できるよう努めます。
- 3 次の事項について環境目標及び環境活動計画を定め継続的な改善に努めます。

## ①二酸化炭素排出量の削減

- ・ 電力（事業所）
- ・ 都市ガス（事業所）
- ・ ガソリン燃料自動車・ハイブリッド車（事業所、建設現場）
- ・ 軽油 燃料自動車（建設現場） ・ 発電機（建設現場）

## ②廃棄物の削減、再資源化の促進

- ・ 一般廃棄物(可燃ゴミ)（事業所）
- ・ 建設副産物廃棄物(排出量の削減、リサイクル、非開削工法)（建設現場）

## ③水使用量の削減

- ・ 一般水道（事業所、建設現場）
- ・ 雨水使用の促進（建設現場）

## ④グリーン購入の促進及びOA紙使用量の削減

## ⑤環境配慮製品の販売、製品サービス

- ・ エコジョーズ、エネファーム、及び太陽光発電装置の販売による環境負荷の削減

- 4 働き方改革による人材確保、顧客獲得、顧客満足度の向上に努めます。
- 5 この環境方針を全社員に周知し、環境意識向上を図ります。

2023年 1月 10日

株式会社 宮坂工務店

代表取締役

**宮坂 勝紀**

# 環境経営目標とその実績等

## < 全社トータル >

### ① 主要な環境負荷排出量(CO2総排出量、廃棄物総排出量、水使用量)

項目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
CO2排出量	kg-CO2	102,220	111,327	104,714
一般廃棄物	t(トン)	0.59	0.56	0.57
産業廃棄物(がれき類)※1	t(トン)	874	986	949
建設副産物廃棄物 ※2	t(トン)	32.06	3.63	8.37
水使用量	m <sup>3</sup>	414	352	373

※1 がれき類 : 建設工事に伴うアスファルト殻、コンクリート殻

※2 建設副産物廃棄物 : 建設工事に伴う副産物/廃棄物/汚泥で、がれき類を除いた物

### ② 環境目標とその実績値

項目	年度	目標値設定基準値	2022年12月～2023年11月		2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標
			2023年度目標	2023年度実績			
CO2の排出量の削減	電気使用量の削減 kWh	2007年度 54,440	49,813	42,770	49,540	49,268	48,996
	CO2排出量	26,948	24,657	21,171	24,522	24,388	24,253
	都市ガス使用量の削減 m <sup>3</sup>	2023年度見直し 3,800	3,800	3,390	3,781	3,762	3,743
	CO2排出量	8,208	8,208	7,322	8,167	8,126	8,085
	ガソリン使用量の削減 ℓ	2016年度見直し 22,980	22,157	15,181	22,038	21,920	21,801
	CO2排出量	53,314	51,405	35,220	51,128	50,854	50,578
	軽油使用量の削減 ℓ	2020年度見直し 25,000	24,625	15,892	24,500	24,375	24,250
	CO2排出量	64,500	63,533	41,001	63,210	62,888	62,565
	CO2排出量合計 kg	2007年度 152,970	147,803	104,714	147,027	146,256	145,481
水使用量の削減 m <sup>3</sup>	2007年度	552	373	549	546	544	
一般廃棄物の排出量削減 t	2007年度	0.72	0.57	0.72	0.72	0.71	
建設副産物廃棄物の排出量削減(汚泥含む) t	2007年度	7.32	8.37	7.32	7.32	7.32	
SPモールによるアスファルト抑制量の削減 t	2007年度	2.70	0.54	2.70	2.70	2.70	
OA紙使用量の削減 kg	2007年度	535	448	532	529	526	
グリーン購入率の増加%	2007年度	76.3	95.0	76.6	77.0	77.3	
環境配慮型製品の販売	エコジョーズ 台	2007年度	20	7	20	20	20
	エネファーム 台	2007年度	3	0	3	3	3
	太陽光発電 台	2007年度	3	0	3	3	3

※、購入電力のCO2排出係数については2019年度大阪ガス電力の調整後排出係数0.495Kg-CO2/kWhを使用している。

※ 産業廃棄物(がれき類)は100%再資源化をされており目標設定していません。

## 2 主要な環境活動計画の内容

### 〈事業所〉

	取組事項	取 組 手 段
CO <sub>2</sub> の排出量の削減	電力使用量の削減	1) 退社時にコピー機、プリンター、パソコン等の電源OFF 2) エアコン温度設定(厳守) 夏25～27℃ 3) 食堂、倉庫、トイレ等不使用時に消灯、空調機器の停止 4) 照明器具のLED化 5) フィルターの掃除(5月、11月)年2回
	都市ガス使用量の削減	1) 暖房エアコン温度設定の厳守 冬20～22℃ 2) 湯の無駄使用、湯の沸し過ぎ、沸したままに放置しない 3) 風呂点火時の適正化 4) 保温茶器の使用 5) 給湯器、元栓未使用時は締める
	ガソリン使用量の削減	1) 社用車の効率的運行 2) アイドリングストップ 3) 急発進、急加速の禁止 4) 日報で距離、給油の記入
一般廃棄物排出量の削減	1) 古紙、缶、ビンの分類 (リサイクル促進) 2) 持ち込みゴミの削減 3) 廃棄物の適正分別	
上水使用量の削減	1) 各自節水の徹底(蛇口は少ないめに開き節水に努め止水を確認) 2) 水道メーターの観察により地中漏水の可能性をチェック 3) 車輜洗車時には無駄な放水しない	
OA紙使用量の削減	1) 裏紙使用の徹底 2) コピー使用後のリセット徹底・ミスコピー防止 3) 会議、勉強会時のペーパーレス化 4) 電子媒体による記録化の推進 5) 使用量削減意識の徹底	
グリーン購入の推進	1) エコ対応商品の購入 2) リサイクルしやすい製品の購入	
エコジョーズ販売の推進	1) 商品PRを強化し販売促進	
エネファーム販売の推進		
太陽光発電販売の推進		
課題とチャンス	1) 技術、資格の取得 2) PRによる顧客取得 3) 人材確保 4) DX・ICTへの取組 5) 働き方改革 6) 先のビジョンに向かって、環境だけでなく品質、安全への取組	

エコジョーズ



(排気熱回収型高効率ガス給湯器)

エネファーム



(家庭用ガス発電・給湯設備)

〈建設現場〉

	取組事項	取組手段
CO <sub>2</sub> の排出量の削減	ガソリン使用量の削減 自動車	1) 社用車の効率的運行 2) アイドリングストップ 3) 車載物軽量化 4) 急発進、急加速の禁止 5) 日報で距離、給油の記入
	発電機	1) 工事使用時には無駄なく効率よく使用する
	軽油使用量の削減 自動車	1) 社用車の効率的運行 2) アイドリングストップの励行 3) 車載物の軽量化 4) 急発進、急加速の禁止 5) 日報で距離、給油の記入
建設副産物廃棄物 排出量の削減	1) 持ち込みゴミの削減 2) 廃棄物の適正分別 3) アスファルトガラ、コンクリートガラの再生利用 4) SR(再生土)プラントへの搬入、FK(良質土判定埋戻し利用)法の適用 5) 非開削工事の推進(道路面でのガス導管の敷設)	
上水使用量の削減	1) 雨水利用による水使用量の削減(道路清掃用) 2) 道路面の清掃は無駄な放水をなくし効率よく清掃 3) ポリタンク注入時や、少量使用時に水カラン調節により節水 4) 現場で仮養生シートを使用し水使用量の削減	
SPモール工法の推進	1) 全現場SPモール工法の適用検討(供給管用非開削工法) 2) 顧客との折衝(敷地内会所掘の承諾) 3) 定期的な施工状況の進捗の把握(目標管理)	

雨水利用

令和3年度から設置場所老朽化により使用禁止



(雨水貯水タンクから現場用ポリタンクに水を注入)

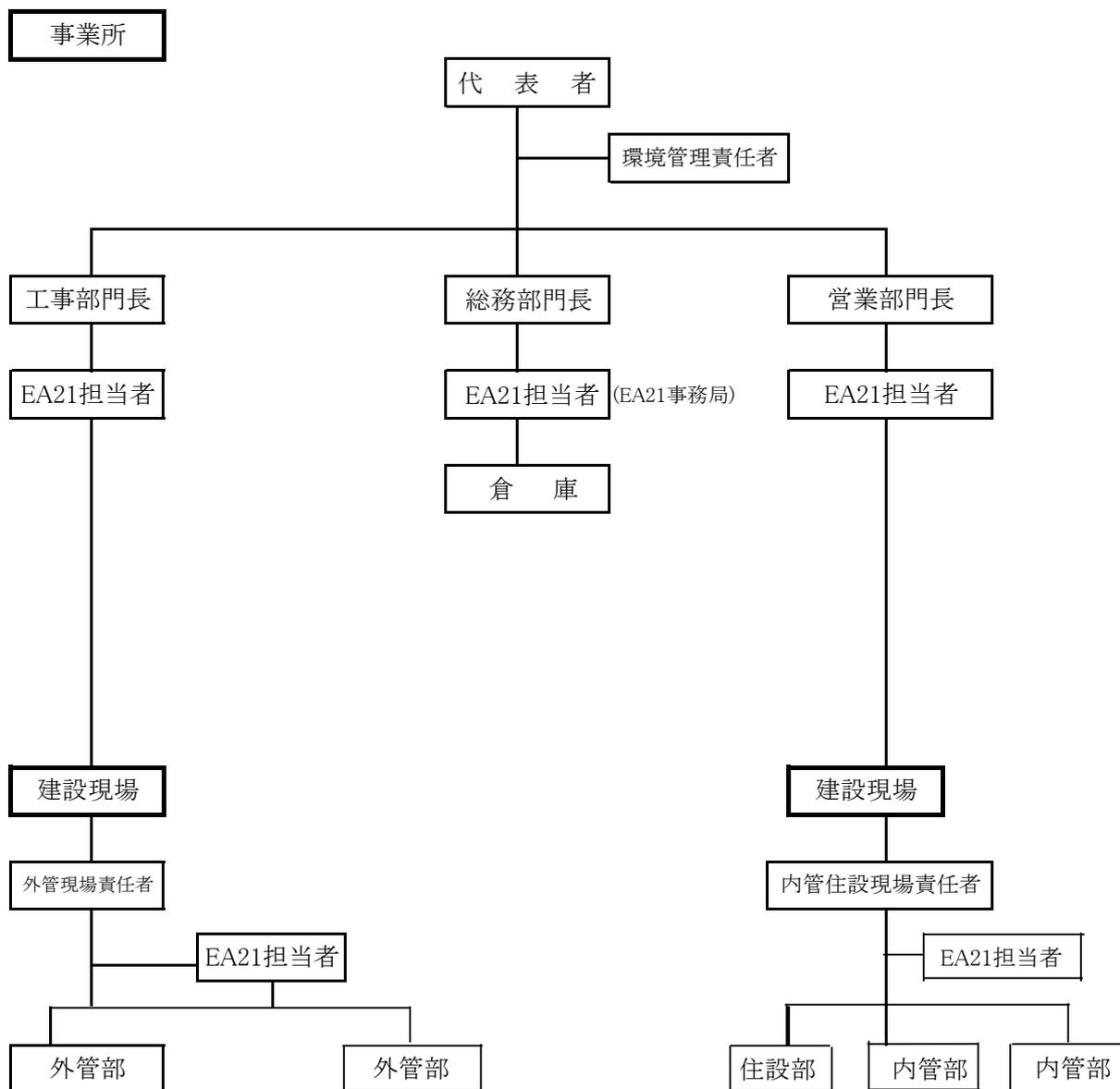
SPモール工法

(会所掘から供給管引き込みが可能)



### 3. 環境活動計画等の実施体制

## EA21 実施体制表



## 4 環境活動計画の取組結果とその評価、今後の取組

〈事業所〉

(2022年12月～2023年11月)

取組事項	結 果	評価、今後の取組
電力使用量の削減 kW/h	目標/実績 = 116 % 49813 / 42770 電気使用量の削減	[評価： ○ ] 夏場のエアコン使用量の削減は厳しいが、H29年4月～R3年11月にかけて事務所の照明をLEDに変更した為、目標達成できた。
都市ガス使用量の削減 m <sup>3</sup>	目標/実績 = 112 % 3800 / 3390 ガス使用量削減	[評価： ○ ] 近年使用量が大幅に増加している為、目標設定の見直しをした。特に温度設定を守り、こまめにON・OFFに取組みたい。
ガソリン使用量の削減 ℓ	目標/実績 = 136 % 5289 / 3886 効率的運行による削減	[評価： ○ ] 3台のエコカー導入効果で削減が順調に行われている。
上水使用量の削減 m <sup>3</sup>	目標/実績 = 152 % 527 / 346 節水による削減	[評価： ○ ] 新型コロナウイルスも落ち着いてきたが手洗い、うがいは継続。夏場の製氷機、麦茶使用等で使用量が増加したが、目標は達成できた。
一般廃棄物排出量の削減 t	目標/実績 = 126 % 0.72 / 0.57	[評価： ○ ] 各自分別により順調に行われている。今後も削減に努める。
OA紙使用量の削減 kg	目標/実績 = 119 % 535 / 448 削減意識の向上	[評価： ○ ] 削減方法は浸透してきたので、特にペーパーレス化に取組みたい。
グリーン購入率の増加 %	実績/目標 = 125 % 95.0 / 76.3 グリーン製品使用の意識向上	[評価： ○ ] 環境対応製品を事務用品だけに限定せず範囲拡大を検討し努める。
エコジョーズ販売の促進 台	実績/目標 = 35 % 7 / 20	[評価： × ] 地場工務店の新築戸数が減少、OGブランドと他メーカーとの競合が難しい。見積を二段構えで提案し、達成を目指す。
エネファーム販売の推進 台	実績/目標 = 0 % 0 / 3	[評価： × ] 大阪ガスからの報奨金も年々減少し、見積のみのケースが多い。リフォーム等で提案数を増やし達成を目指す。
太陽光発電販売の推進 台	実績/目標 = 0 % 0 / 3	[評価： × ] 高額のうえ、国からの補助金が無くなり、電気の買取り価格も下がった為、人気は低下している。

### ※ 総合評価

電力使用量は、事務所全体の照明をLED化し使用量削減することができた。  
都市ガス使用量については、過去数年使用量が目標値を大幅に超えている為、目標設定を変更した。  
ガソリン車使用量は、エコカーが3台となり、削減の要因になっている。  
環境配慮製品販売は全体的に高額商品である為、関心を持つお客様はいるものの目標達成に至らない。

〈建設現場〉

(2021年12月～2023年11月)

取組事項	結 果	評価、今後の取組
ガソリン使用量の削減(自動車) ℓ	目標/実績 = 145 % 14221 / 9812 現場へ効率的運行	[評価： ○ ] 効率よく削減できた。積載量に注意し、忘れ物・注文不足調達等にかかる無駄な走行に注意する。
ガソリン使用量の削減(発電機) ℓ	目標/実績 = 178 % 2647 / 1483 不使用時の停止徹底	[評価： ○ ] 使用時、不使用時のエンジンのON、OFFを徹底し成果が出た。
軽油使用量の削減(自動車) ℓ	目標/実績 = 155 % 24625 / 15892 現場への効率的運行	[評価： ○ ] 効率よく削減できた。積載量に注意し、忘れ物・注文不足調達等にかかる無駄な走行に注意する。
上水使用量の削減 m <sup>3</sup>	目標/実績 = 96 % 26 / 27 現場での効率的な使用による削減	[評価： × ] 現場清掃が増加した。雨水タンクの改修を検討。こまめに止めながら使用する。
建設副産物廃棄物排出量の削減 (汚泥含む) t	目標/実績 = 87 % 7.32 / 8.37 現場での分別徹底	[評価： × ] 副産物の分別徹底を努力しているが、汚泥の排出量は現場により異なるので目標値を決めるのが難しい。
SPモール工法の推移 (抑制アスファルト量) t	実績/目標 = 20 % 0.54 / 2.7 対象物件の獲得	[評価： × ] 対象物件獲得に努め、今後も積極的に取り組む。

※ 総合評価

ガソリン(自動車・発電機) 軽油(自動車)の使用量は、効率よく削減することが出来た。

雨水タンク不具合のうえ、現場清掃が増加した為使用量増加で未達成。

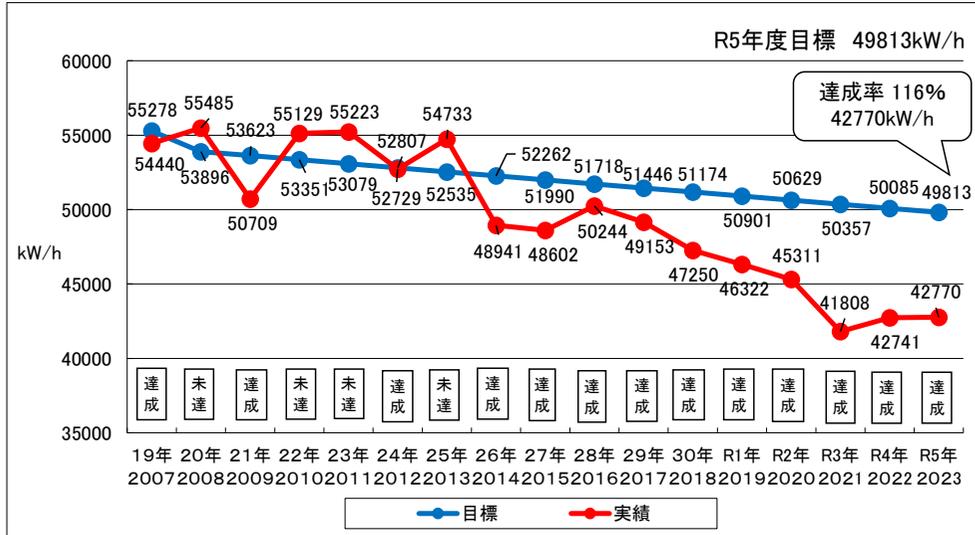
建設副産物廃棄物は、現場の状況により汚泥が多く出たため未達成。

SPモールの供給管用非開削工法件獲得に積極的に努める。

## 環境実績の年度推移と対目標達成 (1)

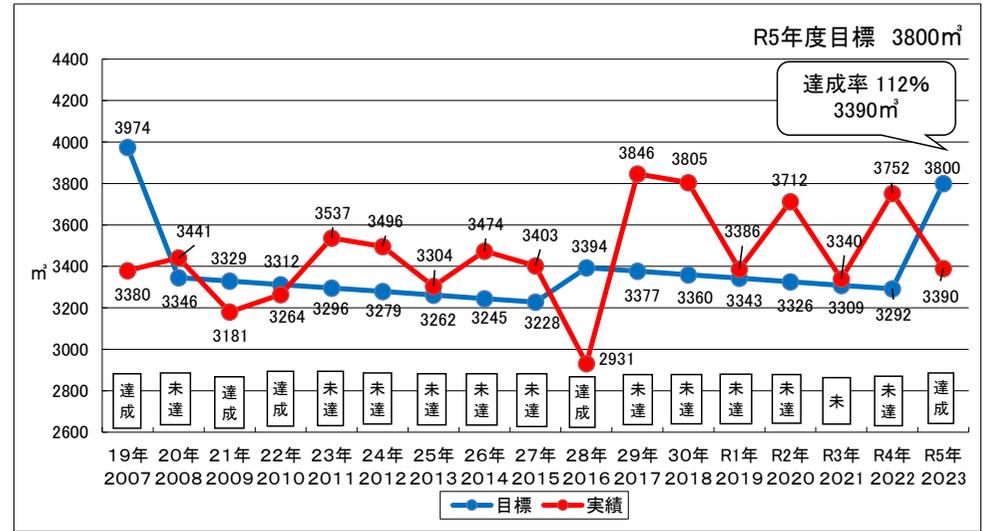
### 電力使用量の削減

事業所



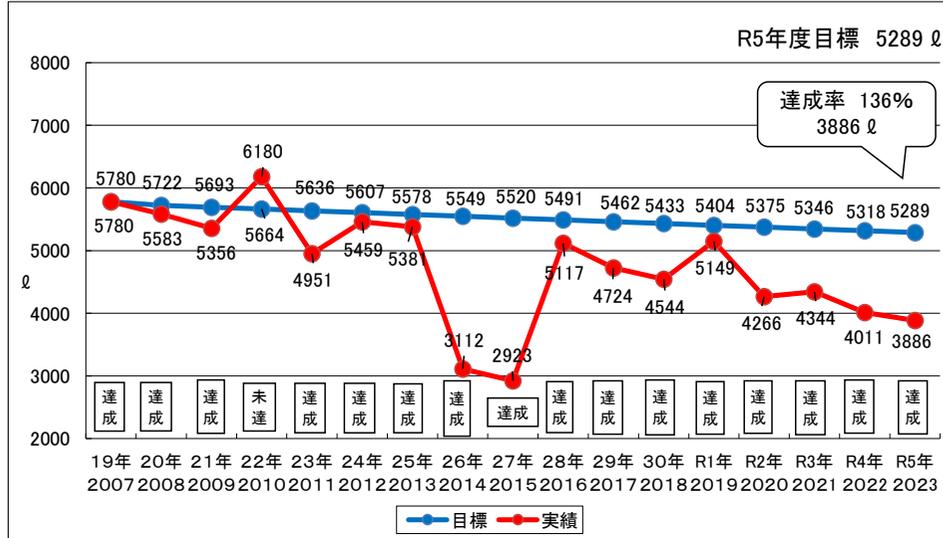
### 都市ガス使用量の削減

事業所



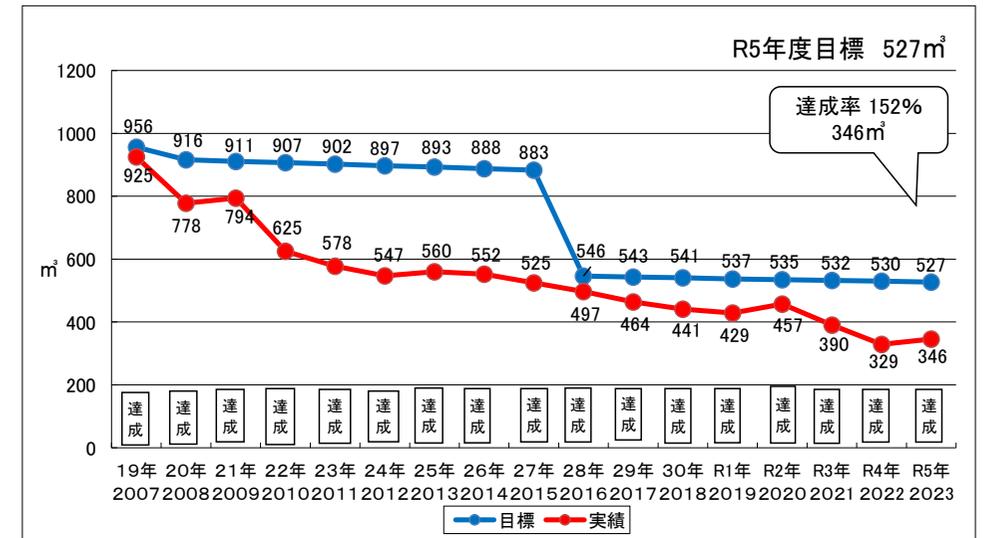
### ガソリン使用量の削減

事業所



### 上水使用量の削減

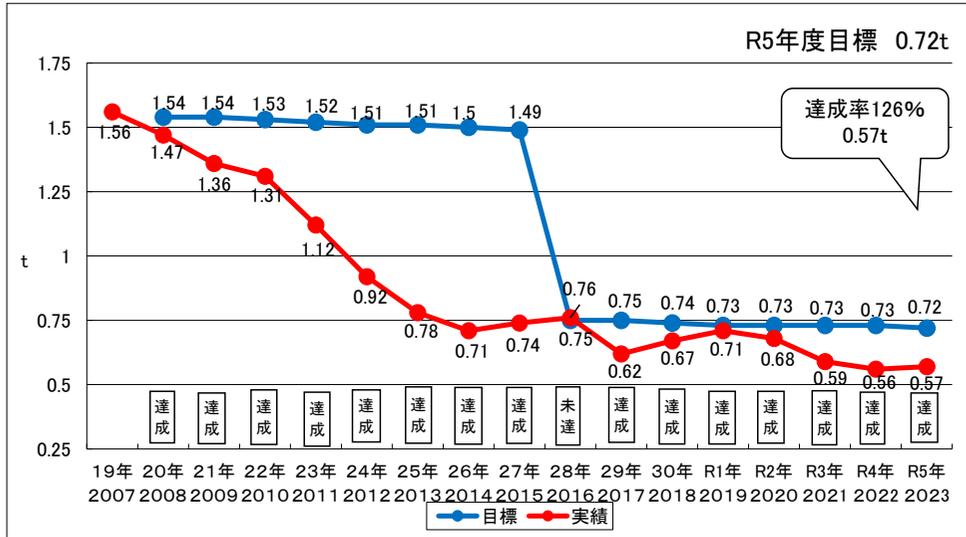
事業所



## 環境実績の年度推移と対目標達成 (2)

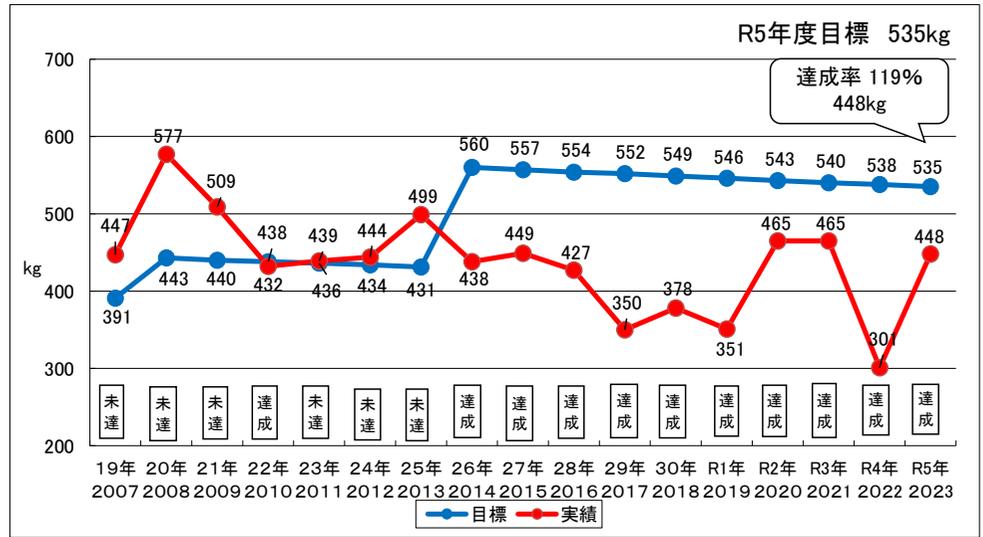
### 一般廃棄物排出量の削減

事業所



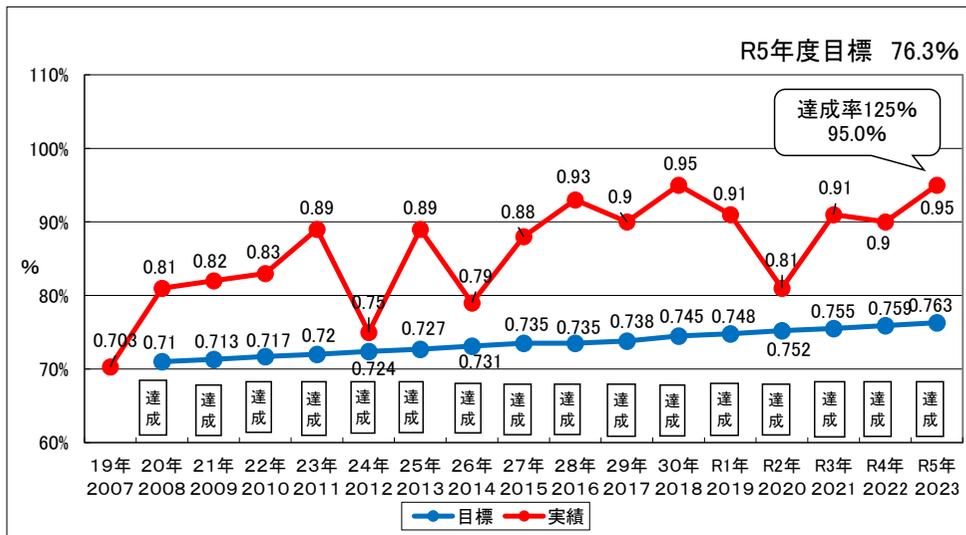
### OA紙使用量の削減

事業所



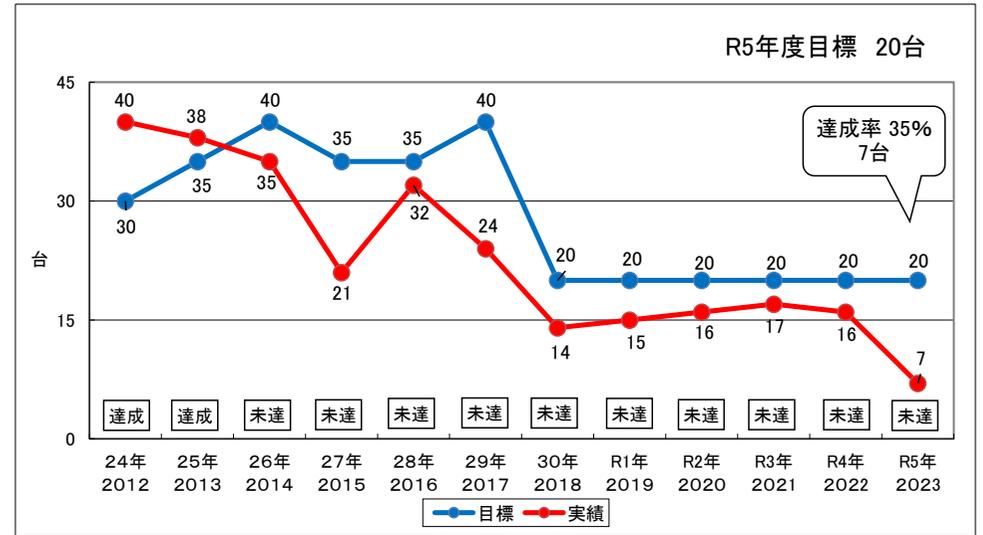
### グリーン購入率の増加

事業所



### エコジョーズ販売

事業所



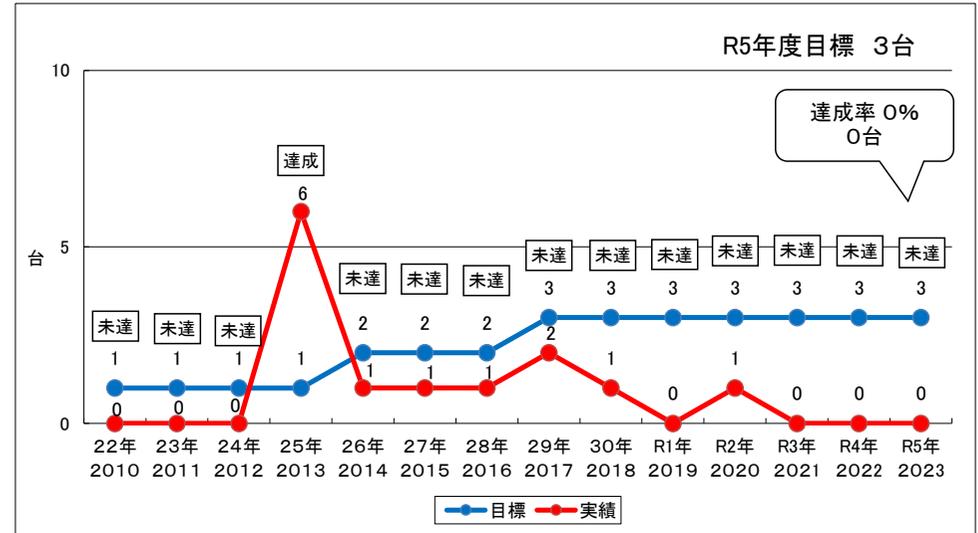
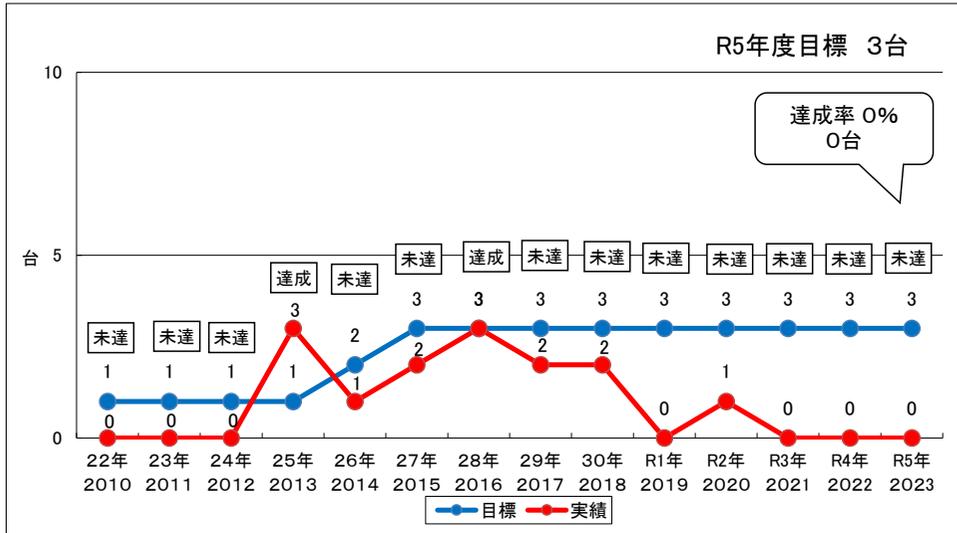
### 環境実績の年度推移と対目標達成 (3)

エネファーム販売

事業所

太陽光発電装置販売

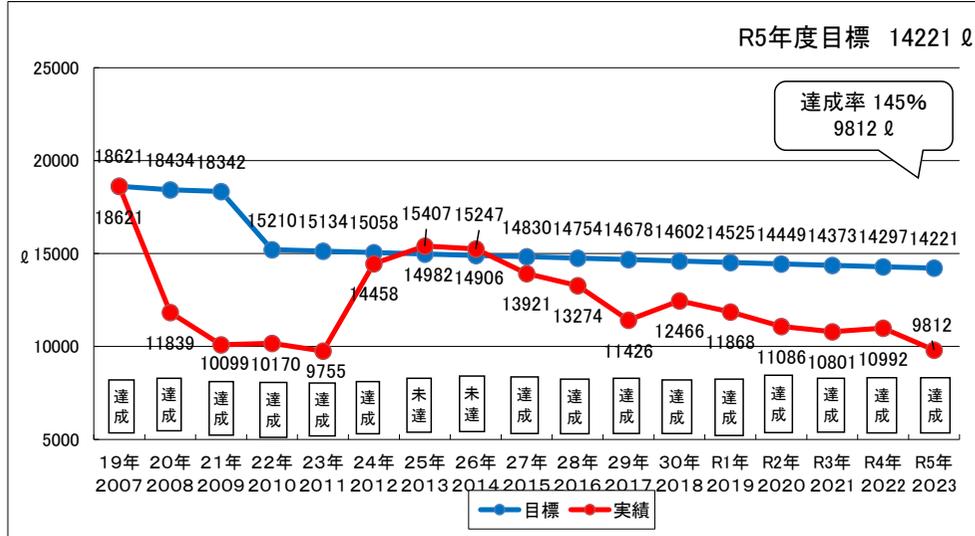
事業所



## 環境実績の年度推移と対目標達成 (4)

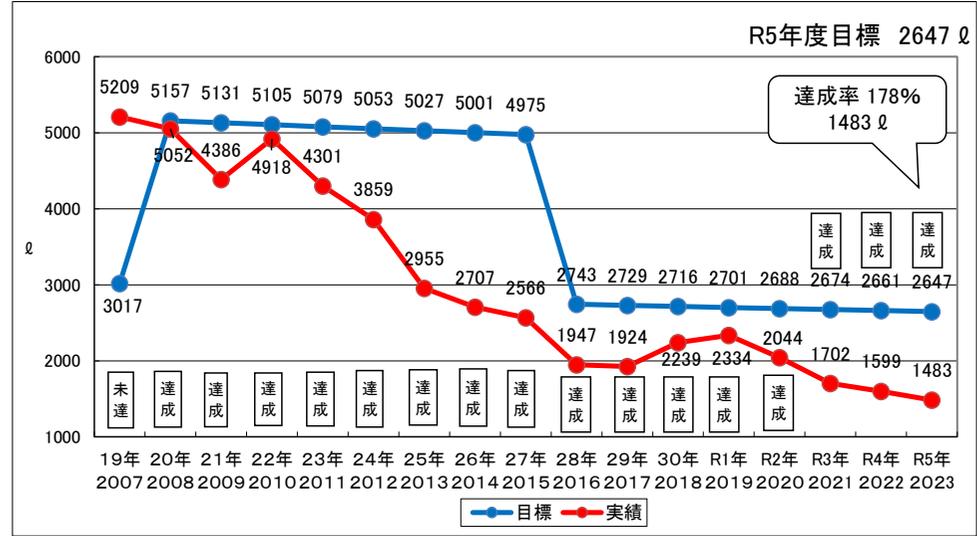
### ガソリン(自動車)の削減

現場



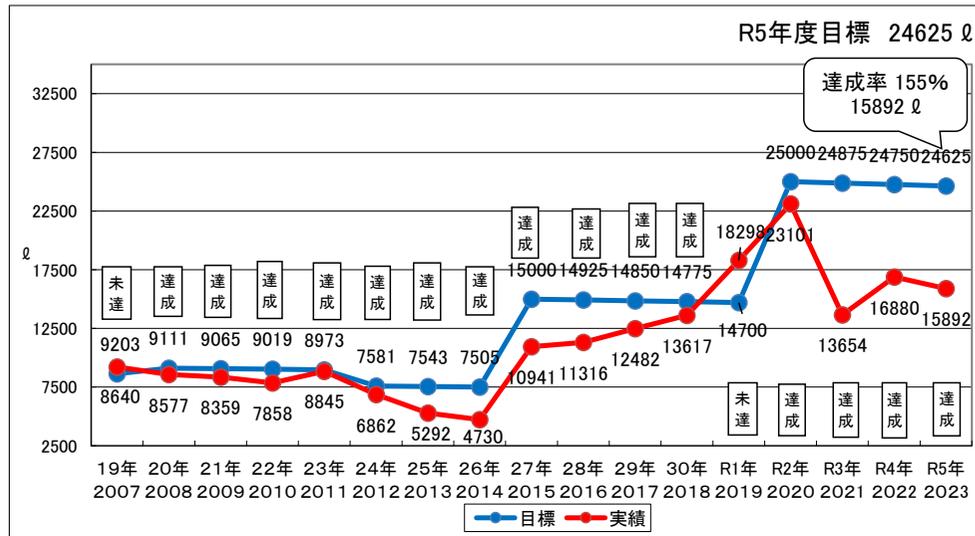
### ガソリン(発電機)の削減

現場



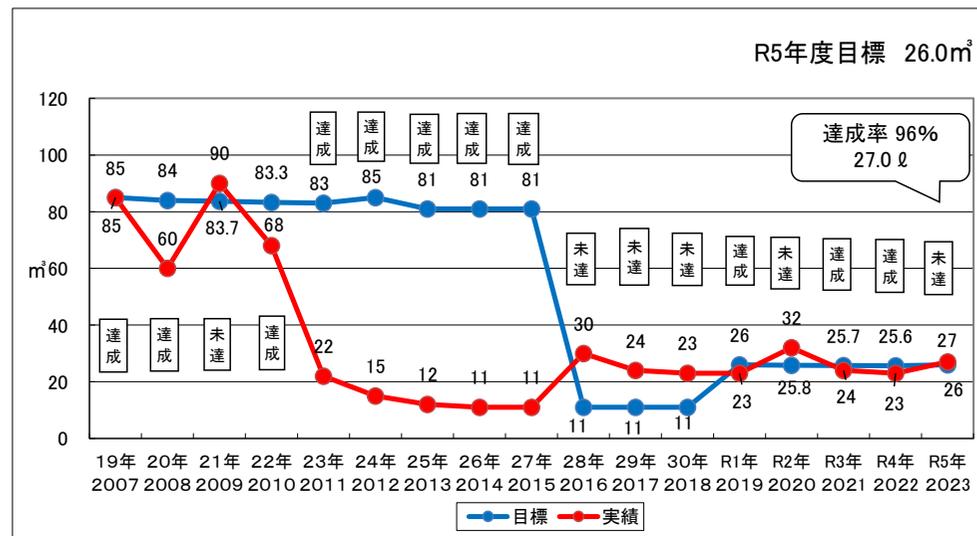
### 軽油使用量の削減

現場



### 上水使用量の削減

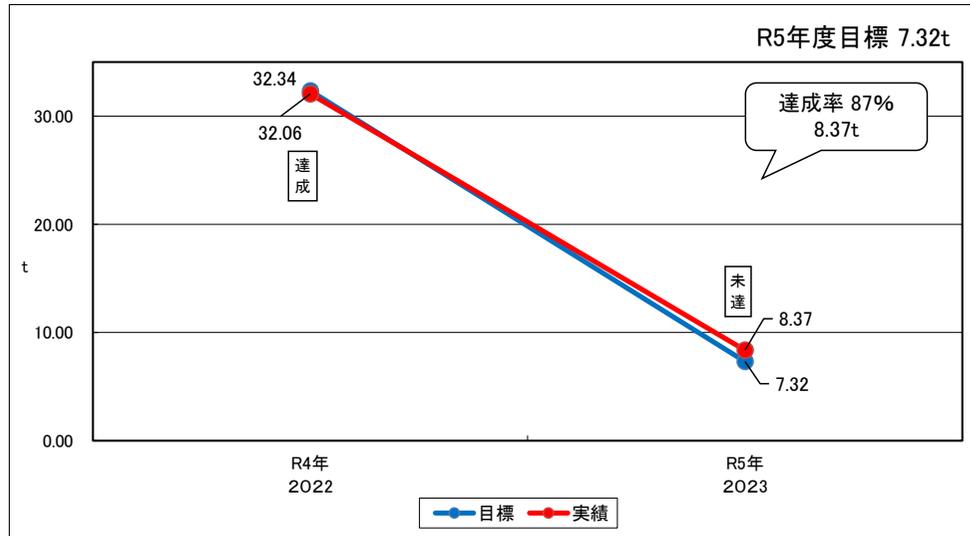
現場



### 環境実績の年度推移と対目標達成 (5)

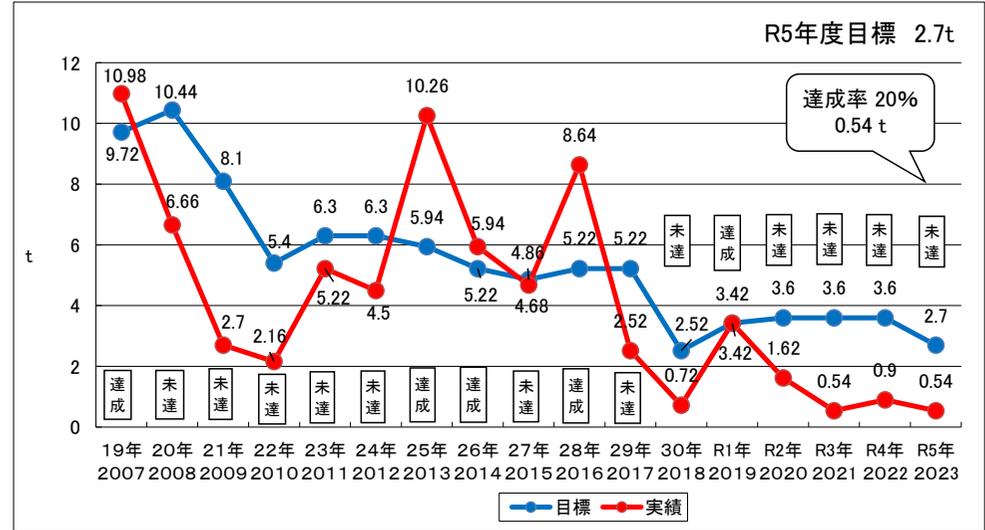
廃棄物排出量の削減(汚泥含む)

現場



供給管用非開削工法(SPモール)により抑制されたアスファルト量の増加

現場



## 5 環境関連法規制の遵守状況確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無

### 1) 主な法規制と遵守状況の確認及び評価

法律名	内容	適法性
地球温暖化対策の推進に関する法律	事業者の責務(温室効果ガス排出量抑制)	○適 ・ 否
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	保管場所に掲示板の設置 (水銀使用製品産業廃棄物含む) 産業廃棄物管理票交付等状況報告書 (年1回) マニフェストの発行、管理	○適 ・ 否
再資源化等の促進に関する法律	引取業者に回収(パソコン等) (リサイクル可能)	○適 ・ 否
建設工事にかかる資材の再資源化等に関する法律 (建設リサイクル法)	建設リサイクル届出 SR土、FK法等活用	○適 ・ 否
騒音規制法	現場での適正な工事	○適 ・ 否
振動規制法	現場での適正な工事	○適 ・ 否
悪臭防止法	ガス導管連絡(ガスバージ)時に活性炭 による付臭剤(硫化メチル)の除去	○適 ・ 否
使用済自動車の再資源化等に関する法律	廃車再資源化等の実施	○適 ・ 否
消防法	防火管理者選任 消火設備等の設置	○適 ・ 否
毒物劇物取締法	液相ライニング剤使用量等の管理	○適 ・ 否
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化 に関する法律(フロン排出抑制法)	業務用空調機の簡易点検と定期点検 の実施・記録・保存(空調機廃棄後3年まで) 廃棄時の規定業者への引渡し、引取り証明 書の確認	○適 ・ 否
Daigasグループ環境行動基準	非開削工法の推進 環境配慮型機器の拡販	○適 ・ 否
特定特殊自動車排出ガス規制等に関する法律 (オフロード車)	対象車(バックホウ、フォークリフト) の基準適合ラベル貼付と定期検査、 日常点検の実施	○適 ・ 否
自動車NOx・PM法	自動車検査証確認	○適 ・ 否
労働安全衛生法	使用・保管する化学物質の リスクアセスメントの実施・周知	○適 ・ 否

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境関連法規制等の逸脱はなかった。

### 2) 違反、訴訟等の有無

自社における環境関連法規制への違反ありません。

関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

訴訟を受けたことも一切ありません。

## 6 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

最近の傾向として、今後洋上風力発電を本格的に目指す傾向にある。また、再生エネルギーの強化と中小型太陽光発電が開発される中、当社としても自立の発電機をもつエネファーム、再生エネの普及に貢献し、省エネルギーCO2削減活動の実践を宣言し環境配慮型器の販売設置に努めます。

### 〈事業所〉

目標達成状況と評価・今後の取組み

電力使用量	H29年4月からR3年11月にかけて事務所の照明をLEDに変更した。 今後食堂、倉庫等徐々にLED化の検討をしたい。 夏場のエアコンの削減は厳しいものの、目標達成。
都市ガス使用量	温度設定、不使用時のON・OFFの徹底により削減余地は多少あるが、15年余り取組んでいると、目標値が限界になりつつある。 目標設定の見直しをした。
ガソリン使用量	ハイブリッド車3台使用の効果により目標達成。
上水使用量	新型コロナウイルスは落ち着いてきたが、手洗い・うがい等は継続。夏場の製氷機、麦茶等熱中症対策により使用量は増加したが目標達成。
OA紙使用量	裏紙使用及び書類のペーパーレス化によりなどにより目標達成。
グリーン購入率	グリーン製品の使用意識を高めて目標達成。今後は事務用品以外にも範囲拡大
一般廃棄物排出量	分別の徹底により削減目標の達成。 今後も用紙類の排出量削減により一層の削減を期待。
環境配慮製品販売の促進	お客様獲得が難しいうえに、コロナウイルスにより営業が制限され 目標未達成。地場工務店への提案により販売促進。

### 〈建設現場〉

目標達成状況と評価・今後の取組み

ガソリン使用量 (発電機含む)使用量	積載量の減少、忘れ物等不注意による無駄な走行をなくすよう、各自取組みを
軽油使用量の削減	積載量の減少、車両のこまめな手入れ等各自取組みを意識しながら削減に努めた目標達成。
上水使用量の削減	現場の道路清掃が増加した為未達成。雨水利用できれば使用量の削減にもつながるので、タンクの再設置のを検討したい。
建設副産物廃棄物 排出量の削減 (汚泥含む)	廃棄物の分別は順調良く削減出来ているが、現場状況により汚泥が増加し、目標未達成。折れ線グラフを改めて作成し直した。
SPモール工法の推進	対象物件が少ない中、何とか獲得に努め、積極的に取組む。

### ※ 今後の取組み

環境経営方針に基づき、活動を維持しマネジメント推進に努める。  
環境経営目標・活動計画の達成度は現場状況により変化するので目標達成は難しいが削減に取り組む。  
その他環境経営システム全般としては現行のまま取組みに努める。  
環境対策は、金額がかさむため経済性も配慮した計画を立て実行したい。

株式会社 宮坂工務店

代表取締役

宮坂 勝紀